

# 中学 1 年生を対象とした剣道授業における意識及び期待の検討

## － 単元前後の性別比較を中心に －

八ヶ代 寛子 （鹿児島大学大学院）

### 1. 目的

本研究は、中学 1 年生を対象として性別に単元前と単元後の比較から、生徒が剣道に対して持つ意識及び生徒の剣道授業への期待についての変容を明らかにすることで初習段階の剣道授業での課題を検討することを目的とした。

### 2. 研究方法

- 1) 対象者は、A 県で剣道授業を実施している中学校 3 校に協力を要請し、同校に在籍する第 1 学年の生徒 327 名とした。なお、授業を実施した教員は、教師歴 10 年以上の教員（剣道五段 2 名、剣道初心者 1 名）であった。
- 2) 時期及び方法は、2018 年 11 月から 2019 年 3 月に、著者らによって作成された質問用紙を単元前と単元後に教員が配布し、生徒に記入してもらい返信用封筒にて回収した。
- 3) 調査 1 の剣道に対する意識に関する項目では、境ら（2007）、金・高田（2012）の研究から 33 の質問項目を選択し、4 件法で回答を求め、選択肢の数値をそのまま得点化し、対応のある t 検定を実施した。  
調査 2 は、剣道授業への期待に関する項目では、学習指導要領解説保健体育編（2008）及び文部科学省の委託事業として東京女子体育大学（2015）が行った調査を参考に著者らによって 10 の質問項目を作成し、4 件法で回答を求め、選択肢の数値をそのまま得点化し、Wilcoxon 検定を実施した。

### 3. 結果と考察

- 1) 男女で共通した意識の変容（調査 1）  
「剣道をすると、礼儀正しくなると思う」

の項目で単元後の得点が有意に高まった。学習指導要領では、身に付けるべき知識及び技能として礼法が明記されている。また、大橋（2014）は、教員が武道授業において、礼儀や相手を尊重するなどの態度や考え方を重視していると報告している。したがって、指導する教員によって礼儀を重視する学習指導が展開されていることから、剣道をするると礼儀正しくなるという意識が高まったと考えられる。

### 2) 剣道授業への期待（調査 2）

「打ったり受けたりするなどの攻防ができるようになりたい」では、男子のみ単元後の得点が有意に低下した。菊地ら（2014）は、攻防が同時的に起こりえる競技特性は領域固有の魅力であると報告している。しかしながら、本研究では、男子は打ったり受けたりするなどの攻防ができるようになることへの期待が低下することが示唆された。その要因として、対人技能への十分な理解のないまま試合を行うため攻防の楽しさを味わうことが出来ていないことや中学 1 年生においては、基本動作と基本となる技が中心のため攻防の学習を取り扱わないことなどが考えられる。

### 4. 結論

本研究により、初習段階の剣道授業における単元前と単元後の変容が明らかになった。

### 5. 主な参考文献

- 1) 菊地耕・吉野聡・柴田一浩・佐藤豊・宇井俊介・斎藤拓真（2014）一撃の攻防を強調する剣道の授業づくりとその有効性，体育学研究 59 巻，pp.789-803.